

'86シーズン

納会 - 芝倉沢 - '86.5.17-18

メンバー：館、小森宮、菅沼、高野、古川、陶山、猿田、蔵田、
角田、加藤、矢野、手塚、西川、島田、佐藤(正)、南藤、
高橋、井村、岩、石部、(久保田、生井) 22名

天候、残雪共に恵まれ、シーズン最後を飾るのにふさわしい
コンディションの下で実施でき幸だった。ただ当事者にはな
らなかったものの、遭難事故に遭遇してしまい、そのために
若干の影響があったようだ。

夜の宴会では陶山氏自慢の山菜の天ぷらが華を添え、
大変盛りあがったようだ。

2回登った人、ビデオ持参の猿田さん ご苦労様でした。(SUGA)



芝倉沢…あ、という間の大滑降…いい顔のメンバー(?)

初納会 芝倉沢

今年の3月に入会した私にとって最初の納会であった。「納会とはなんぞや?」と期待しつつ上野駅でいつも越後湯沢行に来る。さすがに今回も参加者が多い。皆とワイワイ話しながら土合へ。駅の待合室で朝まで仮眠し、ベースキャンプとなる芝倉沢巡回小屋(虹芝寮)へと向かう。道は新道へ入り鳥松曾川沿いに進む。今晩のおかすにと山菜を探しながら行くが中々見つからぬ。普段、山菜に注意して歩いていない私には何が何やらさっぱりわからない。それでも陶山さんがよく知っていて、イタドリ、トリアシショウマ、コゴミなどが採れる。そうこうする内に虹芝寮に到着。テントを張り、一休けの後、芝倉沢へスキーをかついで向かう。芝倉沢出合付近は雪も多く、ここよりスキーを引きずりつつ登り始める。天気はうすぐもりで暑くもなく寒くもなく快適である。上に行くにしたが、各人のベースの速いから列は長くなり、ついには2つに分かれてしまう。私を含めたグループは稜線まで登りつめたが稜線直下の斜面は斜度もさく大変だった。稜線に着いた頃からガスがめき出し早々に下る。登りであれだけ苦労した所をスキーではあつという間である。登りの途中で注意しておいた岩や雪のめれ目を避けて滑る。正面には朝日岳～清水峰周辺の稜線が見える。出合で時間をとりれたりヤドコキで苦労したりしてテント場に帰ったのは夕時頃だ。夕食は芝倉沢へ行かなかつた高野さんや、早く下つた陶山さん、小森弓さんが採った山菜を材料にした山菜料理(おしゃれ天ぷら、和え物)がメインで、できるそばから皆のハシがのび、すぐになくなってしまうようだった。(私も負けずに食べたが、中々オツタものである) 陽が落ちるとたき火を中心に戸で車座になり飲めや歌えやの大宴会で時を忘れて楽しんだ。

翌日(5/8)は青空が広がりす、テリした朝である。早朝に合流した人達と再び芝倉沢を登ぼる。昨日登つた所なのでベースを通り稜線まで登りつめる。ガスもなく周囲の展望を楽しんだ後、思い思いにシュプールを描き出合まで。テント場まで戻りザックを背負つて土合へ向かう足どりは楽しかつて納会の味をかけしきつて軽やかだった。

〈井村〉